

今日は1月10日にあった「キャリアタイム」の話をします。

この体育館で、低学年と高学年に分かれて、それぞれダンスの先生と一緒にダンスをしました。楽しかったですね。その後、ダンスの先生から、大人になったらどんなことをやってみたいとか、先生がどんな夢を持っているとか、ためになる話を聞きました。確か、ダンスの先生になる前は、学校の先生になりたかったんでしたね。

ダンスの先生がみんなにこんなことを聞いてました。「皆さんには大人になったらこんなことをやってみたいという『夢』はありますか」。低学年の人たちは、多くの人たちが「あります」と手を上げていました。高学年の人たちは、手を上げる人はあまりいませんでした。

校長先生は、低学年の人たちの気持ちも、高学年の人たちの気持ちも、どちらもわかる気がします。低学年の頃はやってみたいことやなりたいものがたくさんあります。そして、自分には何でもできる気がします。すばらしいことだと思います。その気持ちをいつまでも持ち続けてほしいです。

でも大きくなると、いろんなことがわかってきます。小さい頃に見た「夢」がそう簡単にはかなうわけではないことがわかってきます。そして、「自分の本当にやりたいことやなりたいものってなんだろう」と考えるようになります。だから「あなたには夢がありますか」と聞かれて、簡

単に手を上げることはできなくなります。でも、それは、自分のことを真剣に考えている証拠だし、悪いことではないと思います。

校長先生は、小学生の頃、大人になってからやりたいことややりたいものは特にありませんでした。でも、音楽は大好きだったので、授業を一生懸命がんばりました。そうするとだんだん自分に自信がついてきました。昔は、「音楽は女子がやるものだ」と考える人が多くて、中学校ではからかわれたりいじめられたりしたこともありましたが、好きなことがあったから乗り越えることができました。でも、将来、音楽に関係する仕事をしたいのかと考えた時、何かそれは違うような気がしました。

もしあの時、私が音楽の道に進もうと決めていたら、私の人生は今とは全然違うものになっていたでしょう。どちらの人生がよかったのか、だれにもわかりません。比べる方法はないし、比べても意味がありません。人生は一度しかないからです。でも、私は先生という仕事を一生懸命やってきて、この仕事がどんどん楽しくなってきたし、この仕事を選んで本当によかったと思います。それに、大好きな音楽も、仕事にしなくても、ずっと続けていける方法があることを知りました。

皆さんに言いたいのは、何にでも一生懸命挑戦してほしいことと、好きになったことはずっと大切にしてほしいということです。